

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳、安心、感謝、共生、交流」をキーワードとした具体的な行動の方針を理念にあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員更衣室に理念を貼り、勤務に入る前に個人で黙読したりフロア2ヶ所に提示しユニット会議時、職員会議時等に唱和行っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族にはホーム便りでお知らせし、地域へは別に地域向けホーム通信を作成し回覧板などでみてもらっている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中など挨拶や声かけ等でいつでもホームへ遊びに来て下さいと伝えたり、バザーや秋祭りをを行い気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気をつくるように努力している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、ふれあいサロン、町内会の一員として入居者と一緒に道路愛護や清掃活動に参加している。バザーや秋祭りをを行い近所のかたが多数みえた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの広報誌に介護の知識を掲載し、いつでも役に立てることをアピールしている。バザーや秋祭り時、ホーム内見学や介護相談をうけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価をもとに職員全員が閲覧し職員会議で話し合いを行っている。改善点あれば改善計画書を作成し改善している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員より情報提供があったり、家族や利用者の話、意見などを取り入れている。活動内容を報告、意見交換し、次回の活動に活かせるように向上に努めている		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会が多い。市からの問い合わせ、事業所からの業務及び、介護に関する質問など聞くこともある		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議やユニット会議等で勉強会を行い共通理解を行っている。また、職員回覧のコーナーに置き認識できるように配慮しているし、家族へはホームの新聞にて制度の紹介をしている。成年後見制度は運営推進会議でも取り上げ、話し合いを行った。他ユニットであるが成年後見人制度を利用されている入居者もいるので、その部分で事業所として認識を深めたと思う。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の開催、職員会議での勉強会、ユニット会議で虐待を行っていないか点検や注意をはらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行い理解得ているし、不明な点の質問等その都度説明している		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	相談員制度は終わったが、アンケートにて家族以外の面会者や家族、入居者の意見・要望をホーム運営に活かしている		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	面会時には近況報告し面会が少ない家族には電話や手紙を通して報告を行っている。手紙には写真を添えており入居者の表情も伝わっている。金銭管理に関しては預かり金等報告し了承のサインをいただくようにしている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関にアンケート用紙を常時おいている。また、意見、不満等がないか面会時、声かけを行っている		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員へのヒアリング、アンケートなど実施し機会を設けている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	早出の時間を変えたり利用者等の状況の変化に対応している。職員の急病等で職員の確保が困難な時は、緊急で話し合いを行い勤務調整している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員へのヒアリング、アンケート等実施し不安、不満の解消に努め、もし退職などがあった場合は退職者への花束贈呈などの機会を入居者の前で行う。これは混乱をなるべく抑える効果があると考えており、現在まで退職者による混乱されたケースはない</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>左記、配慮している。キャリアアップを促し、それらがある時には機械設け勤務調整している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者の方にぞんざいな言葉づかいや対応をしないように言葉遣いチェック表を使い、各個人で評価したり接遇マナー研修を実施し自己研鑽できるよう働きかけている</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修などを推進しており、管理者、代表者との連絡会議を毎月行い管理者としての仕事や考え方などを話し合っており、働きながらヘルパーの資格取得をしたスタッフもいる</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム部会等の参加、見学、他ホームでの研修など行っている</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員へのヒアリング、アンケート等実施。不安、不満の解消に努めている。また外部研修にてスタッフのストレスケアについて学ぶ機会を設け、管理者等参加している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月のユニット会議では、勉強会を行っておりスタッフ一人一人がテーマを決め勉強し発表する機会を設けている。また、外部研修の際はその案内を行っている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人等の話を受容、傾聴し、ニーズを明らかにしていくようにしている</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期には特に連絡をこまめにし、不安なこと等を明確にし改善できるように努めている</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にグループホームのニーズなのか他のニーズなのかをまず見極めるようにしている</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>実際の例はないが場合によっては数日間、日中だけの利用であるとか徐々に馴染めるようなやりかたというものに対しては柔軟に考慮、対応していく考えである</p>		
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で入居者が得意な園芸、料理、縫い物などを通し、スタッフが教えてもらうことも多く、一緒にそれらを行うことで一緒に考える場面をつくっている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡相談を行い、家族に対応して頂くほうがより効果的であろうと思えることは加増に対応して頂くようにしている。 例えば、バスハイク等の行事では事前に家族に声かけており実際に参加されるケースもある。		入居者のキーパーソン宅への外出がキーパーソンとの間で拳がっており、最初は階段の段差等で困難であるとのことであったが、付き添いを行う方向で話を進めている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等に、本人が話された家族の話や思い出話等伝えている。昔、実家で過ごされていた時のホームビデオであったり、舞踊を趣味でされていた時のホームビデオ等、これまでの暮らしを記念に残したものを見る機会を作ることで入居者に思い出を振り返る時間を提供するよう努めている		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会は多く見られている。日常会話の中で馴染みの深かった場所や友人についての話を行っている。本人にとって馴染みの深かった場所へのドライブも心がけている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士の席を作ったり、状況に応じて席替えを行っている。新しく入居者が入居される際は、誰と話が合うのか、趣味の中から話が広がるよう支援に努めている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院入院をされた方にはお見舞いや、ターミナルで亡くなられた方にはお参り等している。その他家族の事情に合わせ対応している。入居中に家族が亡くなられた際は定期的にお参りの送迎を行っている		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で一人一人から暮らし方の希望や、自分はどうして欲しい等の話を傾聴するように努めている。 またセンター方式の中で私の出来ること・出来ないことから生活の中で困難な部分を汲み取り、本人本位になるように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から聞き取れるように努めている。聞き取りが困難な時は家族に尋ね、ユニット会議にて情報を共有化している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること・出来ないことシートを使いユニット会議時等で話し合い、「これも出来るのではないか？」という疑問から出来ることを増やすように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望を聞きユニット会議でケアプランの話し合いを行っている。家族にケアプラン開示し、希望を取り入れている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化生じた入居者に対しては、毎月のユニット会議、臨時会議を開き話し合いを行っている。また会議で決定した事項や状況に応じて家族への連絡、相談を行っている		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践とその時の新しい発見や気づきを記入するようにしている。個別記録にケアプランも一緒に挟みいつでも閲覧、確認ができるようにし、それを踏まえて感じたことや気づきをユニット会議やカンファレンスにて情報の共有に努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ドライブ、買い物、外食などその時々々の要望に応じ、まず利用者のために・・を念頭において柔軟な支援を心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の小、中、高校生の授業の一環としてボランティアの受け入れを行い、高齢者への理解を深めていただくきっかけを作ることができた。また事業所が行う秋祭りやバザーにおいては民生委員や各学校のボランティアの力を借りて楽しむことができた		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療機関とサービス機関を利用されている入居者に関しては支援方法の意見交換を行っている		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	いつでも相談を受けれる体制はとれている		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の往診あり、利用者一人一人に応じた適切な医療が受けられるように連携取れている。24時間対応の主治医がいる。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に認知症の専門医がおられない現状があり、現在は総合病院の精神科の医師をかかりつけ医としており受診の際は相談などしている		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は在籍しており、利用者をよく理解するために看護業務にとどまらず介護業務も対応している。また、主治医の看護師とも相談をしながら連携をとっている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中に見舞い、洗濯物の交換などを行い利用者の状況など聞く機会を多くもち、早期の退院、退院後の生活等の話し合いをもっている</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>まず、入居時にホームでの看取りを希望されるか確認しており、もし重度化された場合は適切な時期に話し合いを状態に応じて繰り返しもち方針を決めている</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>出来ること、出来ないことを家族へ伝え、了解を得たうえで主治医と24時間の対応をしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居等される場合は細かい情報を入れたサマリーを提示し情報提供している。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その方にあった言葉かけに留意し、記録等はファイル使用し、職員にしかみえないようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常会話の中で、問いかけの形で声かけするという配慮をし、ひとつの事についても本人の生活歴や理解度に合った言い方(表現方法)を考えるなどして伝わりやすい工夫、配慮を行いスタッフ同士で情報交換を行っている		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶の時間であっても、まだ居室で過ごされたいなら時間をずらしたり、なるべくその方のペースで生活して頂く配慮をしている 日中にどうしても眠気が強い方に関しては、お昼寝をすすめたりもしている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は訪問理容の来所があるが、希望があればなじみの店に行く事も支援している。入居者の中には稀であるが家族に散髪してもらう等…様々である		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲内で準備や後片付けを行っている。こちらから促すことなく配膳をされたり、お茶を注いで下さる方もおられる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人個人の食べ物、飲み物など冷蔵庫などにお預かりしており、希望がある時は出している。お酒に関してはドクターストップがかかっている方にはお出ししていない。それ以外の方には、正月のお屠蘇の提供をしている。その他、季節に応じておやつ作りを工夫するなど配慮している		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日常生活の中でしぐさやパターンを見つけ随時トイレ誘導や声かけを行っている。その方のその時々状況に合わせてスタッフ間で情報の共有を行い、オムツ、パッドの使用を薦めたり、紙パンツを使用しない方向に進めるなど臨機応変に対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	10:00～16:00の中で好きな時間に入って頂けるようにしており、希望があれば入浴予定日でなくても利用できる。また、入浴の拒否が多い方に関しては毎日入浴をすすめたりと柔軟に対応しており、体調に無理のない範囲で、温度、入っている時間など希望にそっている。	
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホーム内で役割を持って頂くこと等で日中の活動量の確保に努めているが、どうしても日中に眠気が強くなられた際は、仮眠の時間を設けている	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台拭き、洗濯物干しやたたみ、配膳などホームの活動に参加して頂いている。 避難訓練時には参加され消化器使用を体験されて喜ばれる方もおられた。	
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金銭は持っておられる方はないが、小額程度は持たれている方もあり、買い物に行った時に使って頂いたりしている。 外出時等に小額渡し、自分で買い物をされる方もいる	
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常にユニットの中で定期的な外出を挙げており、ドライブ、買い物、バスハイク等を含め支援している。外出の訴え時には、散歩の提案を行うなど対応している	
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の会話の中で「～に行きたい」等の要望は可能な限り実現させるように心がけており、どのような形でかの支援をしている。バスハイク等の外出の際は家族に気軽に来て頂けるよう、声かけしており参加される家族もある	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話されたり手紙のやりとりが出来るように準備しており、支援出来ている。字を書けない方や連絡先へアクセスが困難な方はスタッフが支援を行っている		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	湯茶の用意し、近況などをお知らせしている。居心地よく過ごして頂けるように居室の環境整備を定期的に行っている		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて定期的に話し合いを行っており、身体拘束についての勉強を行う機会も増えてきている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠するが、日中はしない		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら声かけ、見守り等行い様子把握している。「監視にならないのか？」を念頭に置きながら、少し離れた所からの見守りに努め、危険なところへ行かれる際は付き添い行っている		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物について保管場所を定めている。自身で管理できる方は自室で所持されている方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急法の研修や避難訓練の実施、毎日定時に所在確認を行い、ヒヤリ・ハットの報告又、事故防止のための検討を行っている ヒヤリ・ハットや事故が発生した際は、毎月のユニット会議等で話し合いを行い防止策を検討している		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の研修を行い備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携にて入居者も参加した避難訓練の実施を定期的に行っている。火災・災害時の地域からの協力が得られるようにコミュニケーションとして、入居者手作りのコースター等を近隣の方々に配り働きかけを強化している		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン説明時などにリスクとその対応策説明を行い協力、了承得てサイン頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	緊急時対応のマニュアルがある。ホームの看護師、かかりつけ医に報告、相談している		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会議時等に勉強会を行っている。また、夜勤時等に薬のことについて進んで勉強しているスタッフもあり薬の種類を覚えることで誤薬に対する認識も深まり確認もできている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	内、外の研修にて便秘について職員が理解しており、飲食物については水分を多めにとれるように果物、繊維等を適度使用したり、入居者の好みに合わせてカルピス等を使用している。運動については、歩行訓練やプーリー運動、ラジオ体操後の簡単な足挙げ運動等を行っている		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者一人一人の力に応じ、自分で磨いて頂ける方には自力で行っている。また、磨き残し、残渣物の有無、歯茎の状態の観察を徹底して行っており、一人一人に応じた口腔ケアに取り組んでいる		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用しており、専属の栄養士がカロリー計算しての献立を立てている。朝はその献立に準じて立てている		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師による研修やインターネットの情報を利用しマニュアルがある。新型のインフルエンザに備えてのマスクや介護用品等の備蓄を進めている		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック表に基づきつけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物もオレンジ色を基本としたやわらかいイメージにしている、玄関前に一年中咲いている花がたくさんあったり、入居者が飼われている犬がいたり入りやすい雰囲気である		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光がよく入りとにかく明るい空間で大きなガラスから遠くの山や空、庭の芝生、花が見え居心地よく過ごして頂いていると思う		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性、その時の活動内容で自由に過ごして頂いている。ホームとしては共有空間の中でも「一人になれる空間」を重視し、庭のベンチ、玄関前のガーデンテーブルやユニット前にスタッフと入居者で共同し育てた花を設置するなど取り組んでいる		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具などを持ってきて頂くように働きかけている。その後も入居者や家族と話し合って部屋の模様替えを行ったりしている		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を使ったり消臭剤を使用している。居室でポータブルトイレを使用されている方においては、居室内に消臭剤の使用を提案し使用している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各箇所手すりをつけ工夫したり、入浴の仕方も残存能力を活かした物品を利用して対応している		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること・できないことシートを利用したり、トイレは分かりやすいよう絵を貼り付ける等の工夫したり居室は表札をつけている		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	フロアーからすぐに庭に出れるようになっている。庭にベンチ、様々な花や農作物があり散歩を楽しまれている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年を振り返ると、ターミナルケアの入居者や重度化された方の介助で日々が慌ただしく、心にゆとりを持った介護が行えていないというのが現状でした。現在は新しい入居者も増え、以前と違い元気な方の支援が中心となっており日々を入居者のペースでゆっくりと過ごせるようになり、心のゆとりも少しずつもてるようになってきたと共に一人一人の入居者のニーズに応えるという意味での認識が深まってきていると感じています。

排尿や排便の隠語をつくり入居者や家族等のまえて「尿」や「便」という言葉をださないように配慮している